

イカたちの知られざる生活

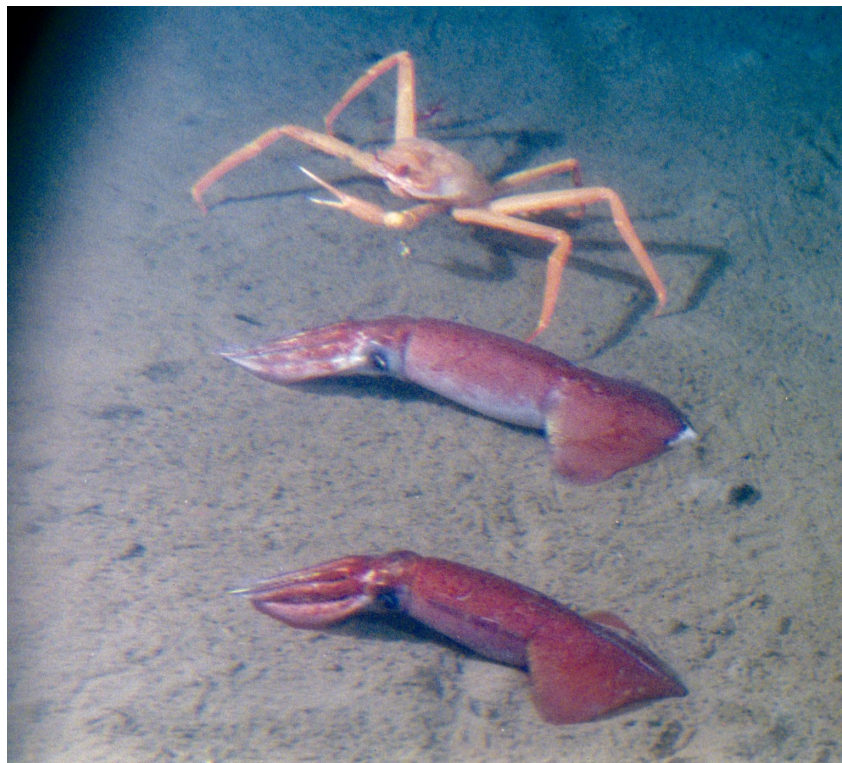
岩をまくらに昼寝を愉しみ、
身も凍る深海で愛を育む

取材協力：
奥谷 喬司
海洋生態・環境研究部

日本人は世界でも稀にみるイカ好きだが、飼育や養殖が難しいイカの生態にはまだ謎が多い。

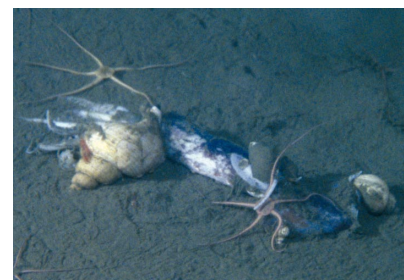
味も姿も最も親しまれているのはスルメイカだろう。国内だけでも年間30万トン近くが水揚げされている。スルメイカの寿命は1年。南西日本で生まれ、北上回遊のあと再び南下し、一生をかけて日本沿岸を往復するが、昼夜は深海と表層の間の鉛直移動も行う。右ページは「しんかい2000」からとらえた深海での交配と思われるシーン。映像では特徴がわかりにくく断定はできないが、スルメイカと見られる。自然界での貴重な映像だ。イカの雄は精子を精包という小さなカプセルに詰め、それを雌の体に撃ち込んで受け渡す。スルメイカの場合、足の付け根の“からす・とんび”などと呼ばれるくちばしの周りを狙って撃ち込むそうだ。撮影地点は深度約700m。「スルメイカは水温1～2℃の低温では活動できない」と言う従来の定説を覆す映像としても興味深い。スルメイカは深度300～600mの海域でも大群が確認されており、これらの科学的実証が待たれている。

一方、仲良く並んでウトウトお昼寝中(?)なのはドスイカ(左写真上)。

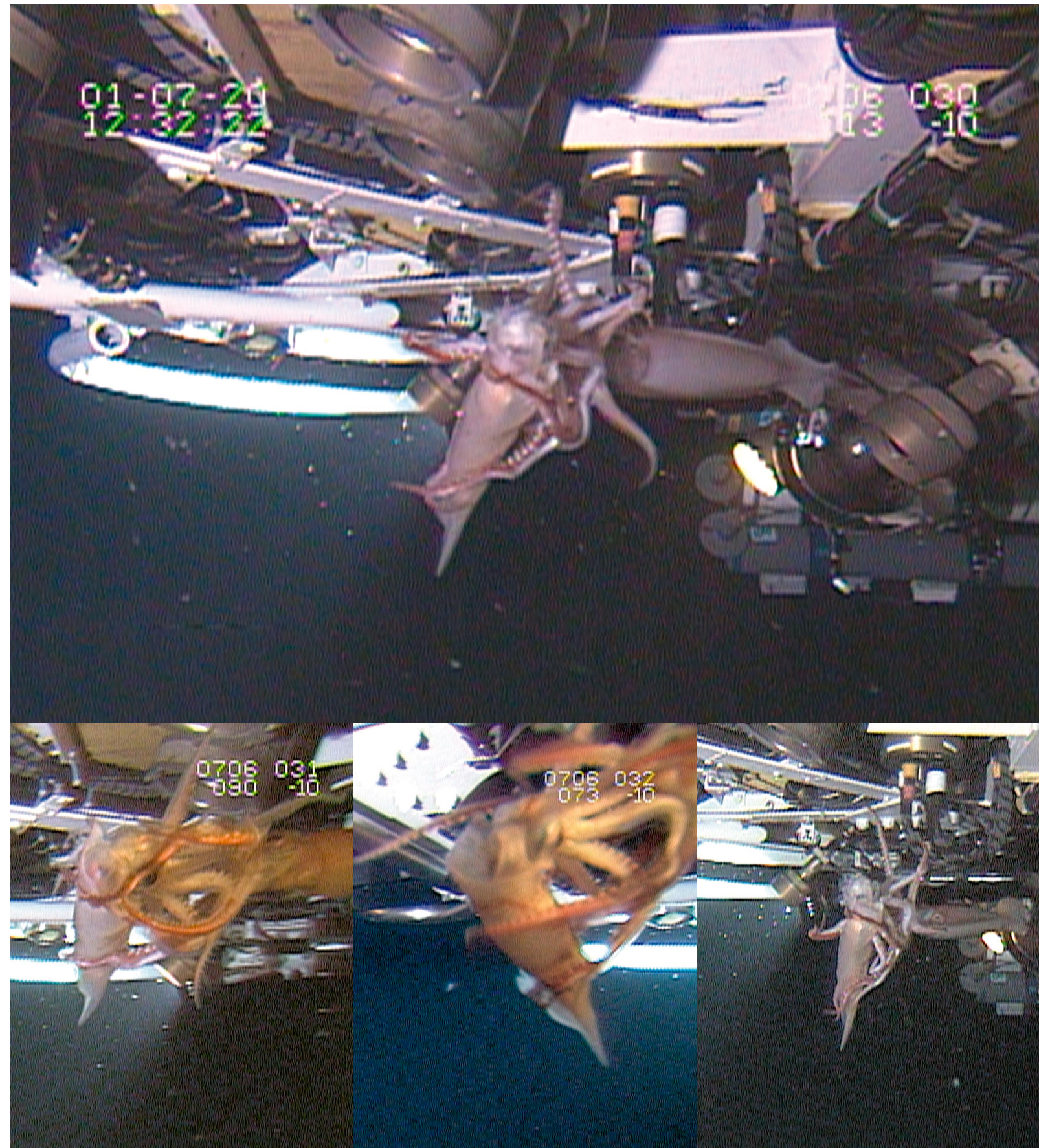


北海道留萌の西200Km沖の海洋火山付近、水深1,159mで撮影されたドスイカ。

ウダラ漁の底曳き網には頻繁にかかるお馴染みのイカで、やはり生態には謎が多い。彼らは600m以深に生息し、このように海底で横になって休んでいる姿が「しんかい2000」で数多く目撃されている。実は睡眠ではなく休息しているだけだというのが、このイカの真意も今はまだ深い謎の海に沈んだまま。



石川県橋立沖、水深227mに見つかったイカの死骸。亡骸は貝やクモヒトデの餌となり、きれいに片づけられていく。



北海道沖後志海山付近、深度705mで撮影。スルメイカの交配と思われる。同じイカでも、コウイカ類やヤリイカ類の交配はスルメイカとは異なった体勢をとる。スルメイカは共食いもよく行うため、撮影当初は共食いのシーンと考えられていたようだ。